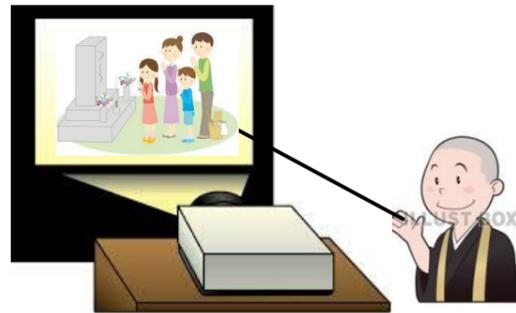


あんのん
世のなか安穩なれ
仏法広まれ



「善通寺盆法要」のお参りをご縁に 親鸞聖人が示された「浄土真宗」という
真実なる教えを映像と共に味わってみませんか。

「盆法要」初日のテーマは、

【 (1) 盆法要 (2) 念仏の教えへの帰依 (3) ご旧跡 】です。

パワーポイントを利用しながら、ご法義を学んでいきます。写真や映像、音声を変えて進めますので、興味深く、楽しみながら味わって頂けると思います。

〔善通寺盆法要 令和三年八月十三日～十五日〕



かがみのごえい
親鸞聖人 (鏡御影)

八月十三日(金)

9:00

◆浄土真宗にとっての「盆法要」とは、

皆様は、ご先祖の墓前で、「どうか安らかに眠りください」という、願いをされたり、亡くなられた有縁の方々の「成仏」を願ってお墓参りをされていませんか？ しかし、親鸞聖人は世間一般にいわゆる「盆法要」を先祖供養や追善供養と見なされていないのです。それは何故なのか、その意味をご法義に照らして確認してみましょう。



11:00

◆親鸞聖人は、何故、「念仏の教え」に帰依されたのか？

親鸞聖人は9歳で出家し、出家後は比叡山に登って、20年間、修学に励み、天台宗の教義をはじめ諸宗の経典を学ばれたことはよく知られています。その修行のお姿は、伝説的に「千日回峰行」の可能性も指摘されています。聖人と千日回峰行との関連性や「念仏の教え」に帰依された背景などを味わってみましょう。



琵琶湖の湖面を眺める千日回峰行の行者

13:00

◆念仏弾圧によって流罪の身となった親鸞聖人が残されたものとは、

親鸞聖人は、35才の時に、承元の法難 [1207年 専修念仏の停止] によって越後(現新潟県)に流罪となります。その後、越後から善光寺を経由して関東へと歩まれ、60才頃に、再び、ご自身が生まれた京都に戻られたと云われています。では、今も、聖人の念仏の息吹を残るご旧跡(善光寺)には、どのようなことが伝承されているのでしょうか。

親鸞聖人像 (善光寺)



善光寺 (長野市)

堂照坊 (善光寺)



聖人が百日間逗留されたという宿坊

善通寺 (浄土真宗本願寺派)

広島市南区南蟹屋 1-6-11

tel 082-281-2779



(講師) 佐々木敏夫師 (釈誠叡)